

ENV200 環境教育論

2年 3,4クォーター

担当教員	石井 潤
授業形態	講義
単位数	2
曜日・時限	未定

授業概要

持続的な社会づくりに向けた環境教育および持続可能な開発のための教育（ESD）の役割を理解し、その教材開発に関する手法を学ぶことを目的として、教室での講義に加えて、里山・里海をテーマとしたフォーラム（発表会）等への参加、およびそれに基づくグループディスカッションと発表会を行う。

到達目標

- ①環境教育の課題発掘および情報発信の手法と考え方を理解する。
- ②持続的な社会づくりに関する科学的課題を理解する。
- ③持続的な社会づくりにおける生物と文化の多様性の役割を理解する。

先修科目

特になし

教科書・参考資料等

- ・ESDに関する文科省と環境省のウェブサイト
文科省：<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339957.htm>
環境省：<https://www.p-esd.go.jp/topics.html>
- ・国際連合大学高等研究所・日本の里山・里海評価委員会（2012）『里山・里海 自然の恵みと人々の暮らし』。朝倉書店
- ・鷲谷いづみ（2011）『さとやま 生物多様性と生態系模様』。岩波ジュニア新書。
- ・田中治彦他（2016）『SDGsと開発教育 持続可能な開発目標のための学び』。学文社。
- ・NPO法人共存の森ネットワーク（2016）『森の学校・海の学校 アクティブ・ラーニングへの第一歩』。日本文教出版。

授業の方法

教室での講義に加えて、里山・里海をテーマとしたフォーラム（発表会）等への参加、およびそれに基づく、グループディスカッションと発表会（プレゼンテーション）を行う。

（備考）フォーラム（発表会）への参加を予定しているが、都合により体験イベントへの参加など他の内容に変わる可能性がある。

成績評価

授業およびフォーラム等への取り組み方

講義形式で行う授業に加えて、フォーラム（発表会）等に参加しながらテーマに沿った情報の収集を行うことから、責任をもった行動と能動的な取り組みが求められる。

フォーラム（発表会）等への参加時に使用したノート

フォーラム（発表会）等に参加しながら、テーマに沿った情報の収集を行った際に用いたノートのコピーを提出する。

発表会の内容

フォーラム（発表会）等で得られた知見を参考にしながら、テーマに沿ったグループディスカッションを行い、その結果について、発表会（プレゼンテーション）を行う。

成績

40% 授業およびフォーラム（発表会）等への取り組み方

20% フォーラム（発表会）等への参加時に使用したノート

40% 発表会（プレゼンテーション）の内容

授業スケジュール

第1～5回 集中講義1日目（自然環境の保全と活用、自然環境と文化、ESDに関する講義）

第6～10回 集中講義2日目（里山・里海をテーマとしたフォーラム（発表会）等への参加と調査）

第11～15回 集中講義3日目（グループディスカッションと発表会）

（備考）フォーラム（発表会）等の開催日により、1日目と2日目の内容は、前後することがある。

事前・事後学習

- ①教科書・参考書等にあげたウェブサイトを一読すること。また、その他の書籍について、興味を持った内容に関して一読すること（予習）。
- ②講義聴講の後に、講義された内容と共に対応する教科書・参考書等の項目について理解を深めること（復習）。